

中学校国語 専門問題例

例一 次の文章（近現代文）を読んで、(1)～(6)に答えなさい。（本文省略）

- (1) 波線部ア～ウの、漢字には読みがなを書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。
- (2) 二重傍線部①～③の品詞又は品詞の一部について、それぞれ品詞名を書きなさい。品詞の一部である場合も品詞名のみ書くこと。

- (3) 空欄

X	Y
---	---

 にあてはまる最もふさわしい言葉をそれぞれア～オから選び、記号で答えなさい。

ア	断続	イ	受動	ウ	合理	エ	否定	オ	直接
ア	複雑	イ	固定	ウ	拡散	エ	内面	オ	簡素

- (4) 次のア～カのうち、傍線部A・Bについて述べたものをそれぞれすべて選び、記号で答えなさい。
 - ア 勝負に拘りを持って集団の存続に寄与する。
 - イ 必要に応じて自我機能の停止の判断をする。
 - ウ 常に平時マインドだけで対処しようとする。
 - エ 情報の精度が低い方がより良く対応できる。
 - オ 自分ひとりの感覚や価値判断を絶対視する。
 - カ 危機的状況に際して協働身体を構成できる。

- (5) 傍線部Cの(a)「機能」・(b)「有用性」について、ここでの意味を、文章中の言葉を使って、それぞれ十五字以上二十五字以内で説明しなさい。

- (6) 傍線部Dとあるが、「どのように危険なのか」、また、「なぜ存在しているのか」を、文章中の言葉を使って、九十字以上百字以内で説明しなさい。

例二 次の文章を読んで、(1)～(7)に答えなさい。

堀河天皇に八年ばかり仕えた讚岐典侍（藤原長子）は、堀河天皇の崩御後、その年の十月、服喪三か月たらずで、幼い鳥羽天皇に奉仕せねばならぬ身の上となる。十二月一日には鳥羽天皇の即位にあたり帳あげをつとめ、翌年正月早々から、鳥羽天皇に出仕する。

十二月もやうやうつごもりになりて、「弁の典侍殿のふみ」といへば、取りいれて見れば、「A院より、三位殿・大納言の典侍など、さぶらはぬついたちなり。さやうのをりは、さるべき人あまたさぶらふこそよけれ。参るべきよし、おほせられたる」とぞある。いかげんとて、参らんとぞいそぎたつ。ついたちの日の夕さりぞ参りつきて、陣いるるより、昔思ひいでられて、かきぞくらさるる。つぼねに行きつきて見れば、こと所にわたらせたまひたるこちして、その夜は、何となく明けぬ。つとめて、起きて見れば、雪、いみじく降りたり。今もうち散る。Bおまへを見れば、べちにたがひたることなきこちして、おはしますらん有様、ことごとく思ひなされてゐたるほどに、「降れ、降れ、こ雪」と、いはけなき御けはひにてのおほせらるる、聞こゆる。こはたそ、たが子にか、と思ふほどに、まことにさぞかし。思ふに、あさましう、これを主とうちたのみまゐらせてさぶらはんずるかど、たのもしげなきぞ、あはれなる。

昼ははしたなきこちして、暮れてぞのぼる。「こよひよきに、もの参らせそめよ」といひにきたれば。おまへの大殿油くららかにしなして、「こち」とあれば、^②すべりいでて参らする、昔にたがはず。御台のいと黒らかなる、御器なくてかはらけにてあるぞ、見ならはぬこちする。走りおはしまして、顔のもとにさし寄りて、「たれぞ、こは」とおほせらるれば、人々、「堀河院の御乳母子ぞかし」と申せば、まこととおぼしたり。Dことこのほかに、見まゐらせしほどよりは、おとなしくならせたまひにける、と見ゆ。

をととしのことぞかし、参らせたまひて、弘徽殿におはしまいに、この御かたにわたらせたまひし

かば、しばしばかりありて、「今は、さは、帰らせたまひぬ。日の暮れぬさきに、かしらげづらん」とそのかしまゐらせたまひしかば、「いましばし、さぶらはばや」とおほせられたりしを、いみじうをかしげに③思ひまゐらせたまへりしなど、ただ今の「こちして、かきくらすこちす」。

その夜も御かたはらにさぶらひたれば、いといはけなげに御ぞがちにてふさせたまへる、見るぞ、あはれなる。

〔讃岐典侍日記〕より。一部省略等がある。

〔注1〕「弁の典侍殿」＝藤原悦子。鳥羽天皇の乳母。〔注2〕「院」＝白河院。亡き堀河天皇の父。〔注3〕「三位殿」＝弁の三位。藤原光子。鳥羽天皇の乳母。〔注4〕「大納言の典侍」＝藤原実子。弁の三位の子。鳥羽天皇の乳母。〔注5〕「御乳母子」＝ここでは、讃岐典侍のこと。

(1) 波線部「かきぞくらさるる」を単語に分けると、その数はいくつになるか、答えなさい。また、その中に含まれる助動詞の文法的意味を漢字二字で答えなさい。

(2) 傍線部①③の主語を次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 讃岐典侍 イ 堀河天皇 ウ 鳥羽天皇 エ 白河院 オ 弁の典侍殿

(3) 傍線部Aの白河院の仰せの内容は、「三位殿」から始まり、どこで終わるのか。最後の四字を書きなさい。

(4) 傍線部Bを「たがひたることなきこち」の内容を明らかにして、口語訳しなさい。

(5) 傍線部Cに表れた筆者の思いを本文に即して五十字以内で説明しなさい。

(6) 傍線部Dのように感じたのは、鳥羽天皇のどのようなようすからか。鳥羽天皇の言動をふまえて、そのようすを以前の時と今回に分け、それぞれ四十字以内で書きなさい。

(7) 次の日記文学を成立の古い順に並べ、その記号を記しなさい。

ア 蜻蛉日記 イ 更級日記 ウ 讃岐典侍日記 エ 土佐日記

例三 次の文章を読んで、(1)～(6)に答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

有_下上書請_レ去_二佞_上臣_者。曰、「願_{ハク}陽怒_以試_レ之_ヲ。執理不屈_也。直臣也。畏_レ威順_レ旨_者、佞臣也。」上曰、「吾自_ラ為_レ詐_者、何以_テ責_メ臣_下之_ヲ直_乎。朕方_ハ以_テ至_ニ誠_一治_メ天下_ヲ。」

或_レ請_フ重_ク法_ヲ禁_ム盜_ヲ。上曰、「当_ニ去_リ奢_ヲ省_キ費_ヲ、輕_ク徭_ヲ薄_ク賦_ヲ、選_ニ用_ス廉_吏。使_レ民衣食有余、自_ラ不_レ為_レ盜_ヲ。安_ク用_レ重_ク法_ヲ邪_ト。」自_レ是_レ

数年之後、路_ハ不_レ拾_ハ遺_ヲ、商旅野宿焉。(『十八史略』より。)

〔注〕佞臣＝こびへつらう臣 陽＝うわべだけ見せかけること 徭・賦＝夫役と租税 商旅＝行人や旅客

(1) 波線部①③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。ただし、③は送り仮名を補うこと。

(2) 傍線部Aに適切な訓点をつけなさい。

- (3) 傍線部Bを書き下し文にしなさい。ただし、「当」は送り仮名を省略してある。
- (4) 傍線部Cが「人民の生活にゆとりを持たせたなら」という意味を表す文になるように、書き下し文にしなさい。

(5) 傍線部Dを口語訳しなさい。

(6) 傍線部Eのようになった理由を、本文に即して五十字以上六十字以内で答えなさい。

例四 中学校学習指導要領「国語」について、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「第一 目標」である。①～④にあてはまる語句を答えなさい。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、①を高めるとともに、②や想像力を養い③を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を④する態度を育てる。

(2) 次の文は、第一学年の「2 内容」A 話すこと・聞くことの一部である。

①～④にあてはまる語句を答えなさい。

A ①の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。

I ②、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

U 話す速度や音量、言葉の③や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。

E 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの④を整理すること。

(3) 次の文は、第三学年の「2 内容」B 書くことの一部である。①・②にあてはまる語句を答えなさい。

I 論理の展開を工夫し、資料を適切に①するなどして、説得力のある文章を書くこと。

E 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて②して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

(4) 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」における「2 第2の各学年の内容の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、次のとおり取り扱うものとする。」に挙げられている事項の一部である。①～⑤にあてはまる語句を答えなさい。

A 文字を①整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や②に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

I 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の③を養うようにすること。

U 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間④単位時間程度、第3学年では年間⑤単位時間程度とすること。

